

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300055		
法人名	有限会社 レッツ		
事業所名	多機能型介護ホーム コスモス		
所在地	岡山県津山市上河原513-1		
自己評価作成日	平成24年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [tsaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&JigyosyoCd=3390300055-00&Pref](https://www.tsukuba-shi.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&JigyosyoCd=3390300055-00&Pref)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の主体性を大切にし、レクリエーション等の押し付けや行動の制限をなるべく行わず、出来るだけ自由に過ごして頂いている。

認知症の度合いや身体の状態を職員がしっかりと観察し、ご利用者様同士のコミュニケーションの取り易い席の場所を考えたり、一人ひとりの状態にあった声かけを行うなど皆様に楽しく過ごして頂けるように日々考え、工夫をしている。

またご家族の方も参加できるお花見や納涼祭を行い、ご家族同士や職員との交流の場の設定を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年7月の開設以来、現在6年目の運営に入っている。外部評価も今回で5回でホームの発展ぶりを見せてもらった。現在の地域密着型の事業所に求められている自己評価・外部評価の制度の運用について5回の実績に対する評価が1つのハードルとなっていて運営推進会議のありようがその判断基準になっている。そのシステムの良し悪しはさておいて、このホームの運営推進会議の運営は、法人の主催する行事及びホームでの行事を初め、ホームに参加する運営推進会議のメンバーが、単に会議に出席するだけでなく、行事やホームの運営の中に入って利用者や家族の生活や生きる楽しみの味わいを完全に共有しているという仕組みになっている事を確認している。運営推進会議そのものが地域密着型サービス事業の中に浸透していると言える他の範となっていることを確認できた。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	信頼されるサービスの提供ができるよう理念の共有を行い、実践に努めている。	「ゆとりと笑顔もある暮らしの実現をお手伝いする事で地域に貢献する」という多機能ホームの特性をゆるぎのない信念で貫き、全員が共有、実践している暖かさのあるホームであると感じた。	理念に掲げた内容は、特にこの自己評価の2～22項目に掲げられ基準がどれだけ達成できているかの積み重ねによってその効果が確かめられると思う。ホームの運営も自己評価することによりアセスメントしてみると良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コスモス主催のイベントが段々と地域の方に認知されてきているようで、参加者は増えてきている。 町内清掃等にも事業所として参加している。 (23・目標計画達成)	平成23年度目標達成計画に組み入れて実現出来ている。コスモス3部門全体の恒例イベントは、納涼祭は近隣住民、グランドゴルフ大会は近隣町内会、演芸大会は他事業所と一般市民を参加対象としているので、老若男女、幼児に至る幅広い層の参加があり、年々ホームへの理解と知名度も高まり、団体の視察研修が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会等の見学希望が増えており、その際に保険制度等の勉強会を行なった。 その他相談があれば個別に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や事業所の情報を報告し、意見交換をし、サービスを活かせるよう調整をしている。今年度は運営推進委員を対象にしたイベントを行い、親睦を深めることで意見交換が円滑に出来るようになった。	本年度5年目を迎えた推進会議は、委員間の懇親会やホームのイベント等の楽しみごとにも積極的に参加しながら、年々意見交換の場を広げている。家族会立ち上げの話題が浮上し、当面はイベントを通じ、推進委員と家族の接触の機会を作って、立ち上げ意識を高めて行く方向付けが会議の中で話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席をして頂き情報交換をしている。日常の相談等にもきちんと対応して頂いている。	毎回推進会議に出席し、委員からの質問にも十分な説明を行い、ホームのことをよく理解してもらっている。困難事例の相談にも適切な指導を受けることが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に対する意識は職員に徹底されており、現在身体拘束は行われていない。行おうとする行為が身体拘束に当たるか、判断が難しいときは情報を集め確認するようにしている。	拘束、虐待も含め、マニュアルに縛られるのではなく、ホームの理念である「笑顔のある暮らしの実現」にそが利用者の人権を守るケアに働すると考えている。徘徊者に徹底したケアで状況が改善したと言う当事者の笑顔と、他施設で対応困難な人がこのホームに来て、落ち着いた暮らしをしているという2事例の当事者の笑顔に出会う事が出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の虐待防止についての意識は強い。利用者の状態は話し合いで共有しており、入浴等のケアの際にも体に異常がないか、虐待の疑いを常に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネージャー間では理解出来ているが、現在、活用支援対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改訂の際には重要事項説明書に沿って説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な自宅訪問や家族の面会時に意見や要望を聞いている。又、運営推進会議で家族の代表が発言する事ができており、運営に反映する事ができている。	ケアマネは介護職も兼務し、毎日、利用者の中に入ってよくコミュニケーションがとれている。問題があれば送迎車に乗り込み家族との接触も行う。最近の傾向として時間帯の変更や延長希望が多く、柔軟な対応をしている。家族から臨機応変の対応が有難い大変に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の連絡調整会や、月一回の代表者を含む連絡会で意見や提案を聞く機会を設けており、運営に反映出来るよう努めている。	月1回のカンファレンス会議で、日常のケアの中での気付きや、改善点など話し合う場を提供している。管理者の他、社長は週1回、統括責任者は毎日訪れて職員と接している。職員の問題には早期に社長との面談で解決する方針が職員の定着につながっている由縁ではないかと話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意・情・知の観点で個々の能力を把握評価し、職員の感性を高めるべき指導を行って各人が向上意欲をもって働ける環境となる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員に対して技術的向上及び知識の高揚を図るための内部ローテーションや研修会を設定し実行する。 (23・目標計画達成)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北でネットワークづくりをし、相互の情報交換をしながらサービス向上へ向けての取り組みをしている。 不定期であるが他事業所との親睦会やレクの勉強会も行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前の訪問や契約時に話しやすい雰囲気づくりや安心感を持ってもらえるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかりと傾聴し、不安や要望について、どの様な対応が必要かを一緒に考えながら関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態に合わせ、必要なサービスを提供できるよう調整し、小規模多機能のサービスだけでは対応困難な事については他のサービス利用も提案し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴し、何を望んでいるか等を理解し、共に考えながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族がどのように生活をしていきたいのかを確認する為に、施設での様子を報告したり、自宅での様子も聞き、家族のサポートをしながら共に本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の育ってきた環境や生活を理解し、話題の提供を行ったり、地域の方々ともお話が出来るよう送迎時には挨拶をし、声を掛けさせて頂いている。	特にホーム内での生活を中心に、利用者同士が笑顔で穏やかに過ごせる事を大切に考えている。相性の合う人、会話の少ない人の配置に注目し、行事と食事には又、配置転換する中で、利用者は安心顔で過ごせていると聞いた。地域においても近隣との関係が良好に保てるよう、送迎時には挨拶など心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮や利用者同士の関係がつくりやすいように職員が話題を提供したり、レクリエーションでも関係が持てる時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事がある時には声掛けを行ったり、相談事があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、本人の思いや意向を見出し、カンファレンス会議で検討している。	管理者、ケアマネは毎日、現場で利用者に接し、問題が生じると送迎車に乗り込み、家族と接触して情報交換する中で、双方の思いを把握している。「ここに来て何をしたらいいんか困っていたら、何をしてもええんよと言われ、編物を始めたら楽しゅうなった」と利用者が自分の居場所を見つけて落ち着いている姿を見ることが出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供資料や24時間シートを活用しながら、本人との会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	動作、会話、レクリエーション等、色々な材料を提供し、有する力を確認すると共に表情や言動にも注意し、心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて担当者会議を開催し、現状の課題等を確認、計画作成に反映させている。	編集計画を毎年作り、色々な分野の勉強を継続実施している。生活機能、楽しみ、本人の思いを計画書に反映し易い様式を作成し、記録の仕方を職員がスキルアップする事を目指し、今後も努めて行く事を職員に求めている。	ケアマネージメントも色々改善して特に利用者のアセスメントに対する考え方も整備されてきた。これを中心とした日常の生活記録やケアプランの作成の効率的な運用の改善につないでいてもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や家族の関わり、ケアの実践課程を個別記録・居宅支援記録に記入し、職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りの対応を検討し、安心して本人や家族が生活できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を収集しながら必要時には民生委員やご近所とも話し合いの場を設け、地域で安全に生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時同行し、サービス利用中の様子を伝え、対応方法等、指示をもらっている。又、緊急時の受け入れもお願いをしている。	受診の基本は家族対応としているが、家族の都合や身体状況が変化した時はケアマネが同行し、医者から指示を貰っている。又、緊急時の受け入れに支障をきたさない為にも、ホームとかかりつけ医とのより良い関係の構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家族からの情報や利用中の変化を報告し、対処への支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は、出来るだけ訪問をし状態把握をすると共に、病院関係者からの情報も頂きながら、退院時には担当者会議を開き、退院後スムーズにサービスが再開出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針としては、事業所にて対応可能な範囲を説明し、不足する部分については家族と調整し、必要に応じて他の機関への働きかけを行い、チームケアに取り組んでいる。ターミナルケアについては基本的に考えていない。	最近の事例として、「通えるまでは馴染み深いホームに通わせて欲しい」と言う家族の要請を受けて、入院間際までお世話させてもらい、入院後も家族と接触をし、精神的支援に努め、家族から感謝されている。小規模多機能の本質を理解頂きながら、出来る限り家族の要望に沿った支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署による救急法の指導を受け、実践力の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、小規模多機能だけでなくデイサービス等も含めたコスモス全体の避難訓練も行うことで協力体制の確認、全体の実践力の向上を図っている。火災対策としてスプリンクラー、火災通報装置を設置した。 (23・目標計画継続)	3部門全体での避難訓練は着実に実施されており、相互の協力体制は整っている。夜間は職員体制も宿直員と夜勤者の2名を配置している事も安心材料となっている。最近の救急法講習会では事前に質問項目を消防署に提出した上で実施したので、実りの多い講習となったと聞いた。スプリンクラーの設置等、ハード面の対策にも積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活や性格を知り、秘密保持を遵守しながら対応を行っている。	トイレは通路に面したドアを開けると手洗いの小空間があり、その奥側に設置されており、リビングからは完全に隔離されているので安心して使用できるようハード面の気配りが感じられる。職員が利用者に話す言葉や動作も十分に尊重を重んじた支援のあり方を見ることが出来た。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴しながら、本人が意思決定をできるよう声掛けをしたり、話題の提供を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の体調や気分を迅速に把握し、無理強いしないよう本人に合った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中と夜間の区別ができるよう着替えをし、泊りの方も同じ服を繰り返し着ないよう気をつけている。泊りのご利用者様による私物の持込もほぼ自由で、必要であれば化粧品等も預かり管理を行う。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から食べたいもの等の情報を収集し、レクリエーションの一環として、一緒に作る機会も作っている。	月～金の昼食は、専従職員が調理し、それ以外は職員が順番に調理をしている。利用者の顔を見ながら鍋料理を囲んだり、イベント的雰囲気づくりで変化を楽しんでもらう工夫も行っている。又、食器にも家庭の雰囲気を思わせる小鉢、大皿など各種使われていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の状態に合わせた量や形態で提供している。水分は毎日記録し、量の確認をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎日声掛けをし、見守りや介助等個々に合わせた対応で口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行いながら個々の排泄パターンを理解し、必要に応じて誘導、介助を行いながら対応を考えている。	必要ある人には自宅のトイレ改修を行い、安全を確保している。ホームでの排泄記録を基に、専門職の立場で家族と情報交換を行い、家族生活とホーム生活の連携を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を行いながら排便管理を行い、必要時には服薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様本人とそのご家族の意見を聞き、他のご利用者様とのバランスをとりながら本人の希望に添えるよう、負担にならないよう注意しながらサービスを提供している。	午前中の中入浴を実施している。「寒うなったけえ、お風呂が一番ええなあ」「ここで入らせてもらえるけえ、ありがたいワ」と職員と利用者が会話していた。特浴使用者は現在2名であるが、出来るだけ明るい家庭的な浴室で心地良さを感じて欲しいと職員体制が整った日は二人体制で一般浴槽を使用する事もあるそうだ。職員の温かい思いやりを感じた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊りは全個室となっており、本人の生活パターンで自由に利用して頂いている。室温や加湿にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で、個々の薬について理解し、薬は2名の職員で確認をし、飲み込みまでを確認する。薬の変更は必ず説明書で確認をし、職員に情報提供し、徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で出来る事はお願いをしている。趣味、楽しみについては個々の希望にて材料の提供を行いながら一緒に取り組んでいる。又、外出の機会をつくり、季節を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出掛けたり、買い物等の希望があれば対応している。	これからの冬期に向けては安全確保が整わないので困難さがある。。そのため軽い体操やゲームで出来るだけ身体を動かすようにしている。個別の買物等には対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みは禁止とさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が出来るようにしている。携帯電話の持ち込みも許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドで調整したり、季節の花や作品で環境づくりをしている。 職員間で情報を共有し、ご利用者同士の相性、身体状態を考えテーブル等の家具の配置を変え、環境が改善されるよう努力している。	吹上の高い天井には二基の扇風機がゆっくりと旋回し、明かり取りの窓から差し込む和らかい光の饗宴が広さと落ち着きを作り出している。テーブルゾーン、ベッドゾーン、一段高い畳ゾーンがあり、昼食後は、それぞれ自分の居場所を決めて落ち着いていた。トイレはプライバシーを完全に守れる構造であるのが嬉しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせて席を移動したり、本人の好きな所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や使い慣れた物を持ってきて頂き、安心して泊れるよう工夫している。	ベッド、タンス、寝具、手洗いが備え付けてあり、室内は落下物の排除や転倒のリスク等にも配慮している。居室と夜勤者の詰所がオープン式で対面しているのので、泊まりの利用者は安心して過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながら、声掛けや介助を行っている。 安全性を高める為、浴室、トイレ内の手すりを増設した。		